介護対談

もし明日、親が倒れても慌てないために、考えておくこと

仕事と介護の両立は、企業にとっても大きなメリット

介護と向き合うなかで、頼るべき会社側のサポートはどこまで進んでいるでしょうか？
川内潤さんも相談員として関わる大日本印刷グループの取り組みについて、
(株) DNPヒューマンサービス相談センター キャリア相談室長の中重智明さんにお話を伺いました。

介護をキャリアにおける最重要課題ととらえる

川内　最初に、中重さんのお仕事における介護支援の位置付けについて簡単にお話しいただけますか。

中重　もともと当相談室は、DNPグループ社員のキャリアについて幅広い相談にのるべく開設されたのですが、介護を抱える相談者が徐々に増え、キャリア形成の重要な要因であることがわかってきました。そこで、2013年から労使共催で「仕事と介護の両立セミナー」を毎年開催。介護の不安が尽きない従業員の多い状況を受け、18年からは東京・大阪でそれぞれ隔月週2日ずつの介護相談会を本格稼働し、現在に至っています。

川内　私も相談会のスタート当初から外部相談員としてお手伝いしていますが、相談には従業員のご家族も同席され、相談室の方も必ずそこにいてもらえています。会社の制度面やキャリア面でのサポートに関し、的確なアドバイスが本当に助かりますし、〝仕事と介護の両立〟を目指すDNPさんの真摯な姿勢を感じます。

自分の辛い介護体験が相談の場で役立っている

中重　実は私自身、実家の両親が相次いで認知症となり、同居すべきか、この先の仕事をどう続けていけばいいか悩んでいた矢先に、この部署へ異動しました。川内さんとの出会いを通じて「介護はプロに、家族は愛を」という接し方を、身をもって体験できたという経緯があります。

川内　当時のご苦心は、私もそばで拝見していましたが、何より中重さんご本人が「仕事を続ける」という意思をしっかりおもちだったのが印象的でした。あの折のご経験は、今のお仕事にも役立っておられるのではないでしょうか。

中重　おかげさまで、家族も本人も苦しい「やりすぎ介護」に陥ることなく、今は両親ともグループホームに落ち着いています。でも、あのままだったら、仕事を続けるという気持ちも折れていたでしょうし、同居での無理な介護のせいで、精神的にも追い詰められてどうなっていたか…だからこそ、相談に来られる方には、悩みを自分ごとに近付けて受容し、共感し、まっすぐに向き合って、サポートできるよう努めたいと思っています。

川内　それも、もともとDNPさんとしての介護問題への本気の取り組みがあったからで、中重さん自ら身をもってそれを体現している点が素晴らしいですね。

ダイバーシティの面でも重視するべき介護支援

川内　DNPさんでは介護と仕事の両立を、従業員だけでなく会社にとってもメリットの大きい課題と位置付けておられます。

中重　介護は出産や子育てに匹敵するキャリア面のテーマです。少子高齢化で人手不足が危惧されるなか、働く人に十分力を発揮してもらい、安心して仕事を続けられる環境を整えることは、事業の存続に関わる重大事ではないでしょうか。

川内　ダイバーシティの面からも、注目されるべきですね。従来の介護休暇は、ともすると利用者が職場からの孤立しかねない使い方をされていましたが、これからは職場と介護者とよりよい働き方のために活用する前向きな視点が必要です。

中重　その点、コロナ禍での在宅勤務の増加が、結果的に介護を背負い込むケースにつながっているのが心配です。今後はそうした状態の改善とともに、なお多い「介護はまだ先のこと」という人たちに、少しでも早く自分ごととしてもらうよう、さまざまな発信をしたいと思っています。

川内　介護は制度をつくるだけでなく、そのきめ細かな運営が大切です。取り組みを通じ、そうしたプラスの面がビジネス界全体で共有されるとうれしいですね。

キャリア相談室の皆さん。スタッフの多くは現在進行形で家族の介護にあたっており、その経験が介護相談の場で生かされている。

もし、介護で仕事を辞めてしまうと――

介護はプロに、家族は愛を

1. **経済的安定を失う**
生活の支えとなる安定収入がなくなり、金銭面の焦りを感じつつ介護に向き合うことになってしまいます。

2. **“やり過ぎ介護”になってしまう**
「できる限りのことをしてあげよう」と思うあまり、要介護者本人の自分でできることがどんどん少なくなります。

3. **介護をプロに頼みにくくなる**
経済面の厳しさから、費用のかかる介護サービス利用を控えざるを得ず、結果的に無理をすることになります。

4. **社会との関係がなくなってしまう**
介護サービスを控えることで、訪問スタッフをはじめ外部との関わりが減り、密室での介護になってしまいます。

5. **介護ストレスで手を上げてしまうことも**
誰にも頼めず、いつ終わるとも知れない介護の不安から、要介護者を怒鳴ったり、手を上げてしまう事態にも。

株式会社DNPヒューマンサービス
相談センター キャリア相談室 室長
中重 智明
Tomoaki Nakashige

1958年生まれ。81年4月、大日本印刷㈱に入社以来総務部門に勤務。グループ会社にて取締役執行役員を務める。途中、大日本印刷労働組合に出向し、副執行委員長を務める。2016年㈱DNPヒューマンサービスキャリア相談室に異動。現在、室長を務める。

『仕事と介護の両立支援ハンドブック』
キャリア相談室が中心で編集し、川内さんも監修にたずさわった社内向け資料。単なる介護支援ではなく、どうすれば仕事との両立ができるかにポイントがしぼられている。

『もし明日、親が倒れても仕事を辞めずにすむ方法』
川内 潤 著
親の面倒は子だけが見るべき？
介護のプロが、介護で本当に大切な心構えと任せ方をやさしく紹介。

NPO法人となりのかいご
代表理事
川内 潤
Jun Kawauchi

上智大学文学部社会福祉学科卒業。老人ホーム紹介事業、外資系コンサル会社、在宅・施設介護職員を経て、NPO法人「となりのかいご」を設立し、現職。ミッションは「家族を大切に思い、一生懸命介護するからこそ虐待してしまう悲劇を絶つ」こと。